

日本独文学会

春季研究発表会

2026年5月23日（土）・5月24日（日）

第1日 午前10時より

第2日 午前10時より

会場 上智大学

四谷キャンパス 12号館

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

E-Mail: tagung2026sophia@jgg.jp

参加費

研究発表会・懇親会ともに

Peatixによる事前オンライン決済（**5月18日まで**）

チケットページ <https://sophia2026.peatix.com>

1. 研究発表会

- ・一般会員：1,500円（当日払い2,000円）
- ・学生会員：1,000円（当日払い1,500円）
 - ・非会員（一般）：2,000円
 - ・非会員（学生）：1,500円

2. 懇親会

- ・一般会員および非会員（一般）：8,000円
- ・学生会員および非会員（学生）：4,000円

日本独文学会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-34-6 南大塚エースビル 603

Tel./Fax: 03-5950-1147

E-Mail (メールフォーム) : <http://www.jgg.jp/mailform/buero>

第1日 5月23日(土)

開会の挨拶 (10:00~10:05)

A会場 (12号館 502)

上智大学 中井 真之
会 長 生駒 美喜

日本独文学会総会 (10:05~11:30)

A会場 (12号館 502)

日本独文学会・DAAD賞授賞式 (11:40~12:20)

A会場 (12号館 502)

ドイツ語学文学振興会賞授賞式・総会 (12:30~13:30)

A会場 (12号館 502)

招待講演 (13:20~14:20)

B会場 (12号館 402)

Prof. Dr. phil. Helmut Heit (Klassik Stiftung Weimar)
Vom Wert der Wahrheit. Nietzsche im Zeitalter postfaktischer Politik
司会：Christian Zemsauer

ドイツ語教育部会総会 (12:40~13:10)

C会場 (12号館 302)

ドイツ語教育部会講演会 (13:20~14:20)

C会場 (12号館 302)

平高 史也 (慶応義塾大学名誉教授)
ウェルフェア・リングイスティクス・共生・言語教育

シンポジウム I (14:30~17:30)

A 会場 (12 号館 502)

1960 年代以降の知識人
——文芸的公共圏と政治的公共圏の交差——

司会：小林 哲也

1. アドルノと「大衆」——文芸的公共圏から政治的公共圏へ——
橋本 紘樹
2. 東ドイツのベンヤミン——1960-70 年代における遺稿編集・出版をめぐって
田邊 恵子
3. 政治的公共圏の脱植民地化をめぐって：ヘルベルト・マルクーゼとアンジェラ・デイヴィスを中心に
大村 一真
4. 文芸批評と政治批評の交差——K・H・ポラーの美学——
小林 哲也

口頭発表：文学、文化・社会 I (14:30~17:05)

B 会場 (12 号館 402)

司会：中井真之・眞鍋正紀

1. ヴァニタスと患者—『阿呆物語』に見るメメント・モリ
森下 勇矢
2. 式場隆三郎におけるドイツ病跡学の受容と「ゴッホ神話」
石野 光俊
3. H. E. ノサックの「境界」概念再考—〈生／死〉表象における脱二元論的傾向—
石上 淳史
4. 若きベンヤミンにおけるカント批判の転回—「経験」概念から「暴力批判」へ—
寒河江 陽

口頭発表：語学、ドイツ語教育 I (14:30~17:05)

C 会場 (12 号館 302)

司会：浅見昇吾・高橋亮介

1. ドイツ語自然発話におけるジェンダーと世代の交差
若井田 雅仁
2. 基本形屈折と語幹屈折に基づく現代ドイツ語名詞形態論の再構築—屈折・派生・複合の統合的記述に向けて—
池田 裕行
3. Kontra Valenz? —ヴァレンツ理論再考
田中 慎

4. Aufforderungs-Ethicus について：発話行為と人称制限

城山 月花

ブース発表（14:30～16:00）

D 会場（12 号館 202）

近年の言語学に見られるパラダイムシフトから何が言えるか

渡辺 学

ドイツ語教育部会

「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・DaF-Café（13:00～17:00）

（12 号館 102）

懇 親 会（18:00～20:00）

会場：上智大学 11 号館地下 1 階ラウンジ

会費：8,000 円（学生は 4,000 円）

※懇親会費の支払い方法については、プログラム 1 頁目を御確認ください。

第 2 日 5 月 24 日（日）

シンポジウム II（10:00～13:00）

A 会場（12 号館 502）

トーマス・マンの間メディア性

司会：今井 敦

1. マンにおける諸感覚と言語のメディア — 朗読者、俳優、雑誌編集者、
として作者として 今井 敦

2. 1923 年の無声映画 *Buddenbrooks*

別府 陽子

3. ハリウッドのトーマス・マン

山本 佳樹

4. トーマス・マンとエリカ・マン

千田 まや

口頭発表：文学、文化・社会II (10:00~11:55)

B会場 (12号館 402)

司会：山取圭澄・加藤恵哉

1. カフカの「相撲」と「柔術」——日露戦争と日本イメージをめぐって
藤田 隼風
2. 『プルースト—カフカ—ジョイス 入門講義』(1948) 再考 —戦後のエ
リアス・カネッティの文学論の起点として
相馬 大樹
- ~~3. 抵抗の技術としての対位法——テ—オドア—W—アドルノの音楽哲学にお
ける音楽的主体と唯名論——相馬—巧
(ausgefallen)~~

口頭発表：文学、文化・社会III (10:00~11:55)

C会場 (12号館 302)

司会：小松原由理・Mechthild Duppel

1. Kamerabewegungen, Perspektiven und Blenden während des
Drachenkampfs in Fritz Langs Stummfilm-Epos Die Nibelungen (1924)
C. P. Reinelt
2. Kolonialismus kommt nach Hause: Afrodeutsche Lebenswelten im
Kaiserreich zwischen Alltag, Exotisierung und Widerstand
Manuel Kraus
3. Heimat に特化した文化資本としての少数言語と少数言語教育の役割—フ
ェール島における外国語としてのフリジア語学習を事例に—
Adam Jambor

口頭発表：語学、ドイツ語教育II (10:00~11:55)

D会場 (12号館 202)

司会：佐藤 友紀子・Daniela Tateishi

1. Im Wandel der Zeiten – Füllwörter zwischen Funktion und Kritik
Sabine Randhage
2. Auditive und akustische Analyse von Audioaufnahmen zur Beschreibung
und Quantifi-zierung von Ausspracheabweichungen mithilfe von MAXQDA
Ralph Degen
3. Lernorganisation, Lernleistung und Ressourceneinteilung, wie sie

zusammenhängen und wie wir sie fördern können

Frank Nickel

閉会の挨拶（13:00～13:05）

A 会場（12 号館 502）

上智大学 大田 浩司

研究発表会期間中、上記のプログラムに加えて、書店・出版社等による書籍展示が行われます。

会場のご案内

会場：上智大学四谷キャンパス 12 号館

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

最寄り駅：JR 中央線、東京メトロ丸ノ内線・南北線 / 四ッ谷駅 麴町口・赤坂口から徒歩 3 分

Informationen zum Tagungsort

Die Tagung findet auf dem Yotsuya-Campus der Sophia-Universität statt.

Adresse: 7-1 Kioicho, Chiyoda-ku, Tokyo 102-8554

Die nächstgelegenen Stationen:

Yotsuya (JR Chuo-Line, Tokyo Metro Marunouchi-Line, Nanboku-Line)

ハラスメント対策ワーキンググループよりご案内

ハラスメント対策 WG ブース（1 日目 14:30～2 日目閉会まで）

（12 号館 301）

学会では現在、ハラスメント対策 WG を立ち上げ、ハラスメント対応の制度づくりを進めています。情報共有とディスカッションのため、今後、春・秋の研究発表会において WG ブースを設けます。その際の参考にさせていただくため、「ハラスメントに関する目安箱」を Google Form で設置いたします。

<https://forms.gle/78ckMAPv67TAn5mk9>

ハラスメントおよび差別は、人間の尊厳にかかわる問題です。日本独文学会は、いかなるハラスメントも差別も許容しません。学会のハラスメント・差別防止に関する取り組みについては、下記ページをご覧ください。

<https://www.jgg.jp/mod/page/view.php?id=648>